

授業改善書

科目名	認知心理学
担当者	山下利之

授業の概要

人間の情報処理は低次から高次なものへ、感覚、知覚、認知と分類される。すなわち、認知とは人間の最も高次な情報処理を意味しており、認知心理学は主として情報処理の観点から人間の認知過程を論じる研究領域である。本講義では、感覚・知覚・認知の関係、言語・概念、記憶、感情、問題解決を中心に論じ、人間に対する理解を深める。

授業の問題点

認知心理学は大きく分けると、言語・概念、記憶、問題解決、感情という研究領域に分けられる。言語・概念は人間の高次な情報処理（認知）に深く関わっているために、研究量も多く、学ぶべきことも多い。また、言語・概念に関しては質問も多く出たために、その解説も含めて多くの授業時間を費やしてしまったために、他の研究領域の授業時間がかなり少なくなってしまった。授業時間の配分をもっと計画的に進めるべきだったと思う。

学生の授業満足度

認知心理学で取り上げる問題は我々の日常的な認知処理に関係していることが多いために、関心を持って授業に参加していたと思う。そのためにある程度の満足度を持ってくれたと思う。

授業改善の課題と方策

授業の配分をより留意して、(1)言語・概念、(2)記憶、(3)問題解決、(4)感情、の4つの研究領域を、要点を絞って分かりやすく論じていきたい。また、講義内容に関する課題を来年度も実施して理解を深める工夫を深めたい。

その他

講義の中で学生から質問や意見を出してもらい、みんなでディスカッションをしながら授業を進めるというスタイルが理想であろうが、それは学部の少人数のゼミや演習、あるいは大学院の授業やゼミでは成立するが、多人数の学部の講義では成立しにくい。しかし、受講生からのリアクションが得られるような講義を目指したいと思っている。

授業改善書

科目名	環境心理学
担当者	山下利之

授業の概要

環境心理学は、環境と人間の相互作用を研究する心理学である。人間の心の状態や行動は環境から多大な影響を受けると同時に、環境に働きかけ、環境を変えていく。環境は人間の作った物理的環境や自然環境のみならず、個人もまた他者における環境の一つである。本講義では、環境心理学の考え方、研究方法、研究分野、現在得られている知見などを知り、環境の観点から人間の理解を深める。

授業の問題点

環境心理学は応用心理学の一つであり、さらに環境デザイン、建築、社会学など様々な学問が関係する学際的な領域である。そのために、環境心理学だけを専門としている研究者は少なく、例えば知覚心理学の研究者は環境の知覚に焦点を当てた研究、社会心理学の研究者は対人・社会関係などに焦点を当てた研究など、環境心理学は様々な展開を見せている。講義でも様々な研究の視点、方法、知見を示すことになるが、それが受講生にとっては環境心理学の分かりにくさをもたらしていると思われる。

学生の授業満足度

前述したように、環境心理学は応用心理学、学際領域の研究であるために、さまざまな問題の視点、研究課題、研究方法が錯綜しており、学生は様々な話を聞かされるために、どこを重要視すればよいのか分かり難かったと思われる。そのことが授業満足度に影響したと思われる。

授業改善の課題と方策

授業内容を環境心理学のなかでも、(1)視覚心理学的な視点、(2)認知心理学的な視点、(3)社会心理学的な視点、(4)計量心理学的な視点、の4つに大きく絞って、心理学からの環境研究（研究目的、方法、得られた知見など）がより分かりやすくなるように講義を進めたい。

その他

講義の中で学生から質問や意見を出してもらい、みんなでディスカッションをしながら授業を進めるというスタイルが理想であろうが、それは学部の少人数のゼミや演習、あるいは大学院の授業やゼミでは成立しやすいが、多人数の学部の講義では成立しにくい。しかし、受講生からのリアクションが得られるような講義を目指したいと思っている。